# INTERVIEW

インタビュー・紺野美沙子さんに聞く

ファーライ火力発電所にて

## 紺野美沙子さん

慶応義塾大学文学部を卒業後、1979年に映画「黄金のパートナー」でデビュー。NHK連続テレビ小説「虹を織る」主演などテレビ・映画・舞台に活躍する一方、著作活動も行う。98年に国連開発計画（UNDP）親善大使の任命を受け、以後、カンボジア、パレスチナ、ブータン、ガーナを視察するなど国連大使としても活動している。2005年には舞台「細雪」に出演。

### 貧しい人々の生活改善に直接結びつく開発援助を

**――まずは、今回UNDP親善大使として訪問されたベトナムの印象を聞かせてください。**

**紺野**　これまで訪問してきたパレスチナや東チモールに比べて、ベトナムは高度成長期の日本のような人々のエネルギーを感じました。また、副首相をはじめ開発に携わるベトナム政府の方々や、JBIC関係者、NGO、日本の政府関係者にお会いしましたが、若い方が多く、皆さん大変気さくで、とても親しみを感じました。

**――視察いただいた円借款事業「ファーライ火力発電所建設事業」「地方開発・生活環境改善事業」についてはいかがですか。**

**紺野**　今回、「地方開発・生活環境改善事業」を拝見して、円借款でも地域単位の小規模開発がたくさん実施されていることを初めて知りました。生活に最も大切な水や電気のインフラを広く行き渡らせることは、貧しい人々の生活改善に直接つながる、とても意義のある活動だと思います。こうした地道な開発援助の活動は日本でもほとんど知られていないので、私もその広報活動をお手伝いしていきたいと思います。

　また、開発に伴う大気汚染等、環境問題は気になるところですが、「ファーライ火力発電所建設事業」においては環境面にも配慮されていると聞きました。日本が高度成長とともに経験してきた公害問題等の教訓はベトナムで活かされているのですね。

### 良いパートナーシップにつなげていけるように

**――環境の変化を始め、開発事業は地域の人々の生活に大きな変化をもたらします。当行では、事業の効果を確認し、また教訓を得て後の事業に活かすために、「A・B・C・D」といったレーティングで事後評価を実施しています。ご覧いただいた「地方開発・生活環境改善事業」は、今年度の評価対象事業※なのですが、事後評価においてどのような点を評価するべきだと思われますか。**

※評価内容の公表は2006年度の予定

**紺野**　やはり人々の生活がどのように改善されたか、という点ではないでしょうか。日本ではほとんど考えられませんが、世界には不衛生な水を飲んで亡くなる子供がとても多いそうです。水の浄化事業によって、人々の健康状態がいかに改善されたかであるとか、遠くまで水くみに行かずにすむことでその分家事の時間が増えたとか、生活に密着した視点からの評価をぜひ行っていただきたいと思います。また、レーティングという指標で表すのは難しいかもしれませんが、援助した国と援助を受けた国との間で、その後いかに良い関係が構築できたかという観点も大切ではないかと思います。日本の援助によって事業が成功して相手国が発展し、その経験を双方が長く活かしながら、対等の立場でパートナーシップを築いていけるのが理想的だと思います。

**――円借款の場合、相手国が自らの予算で行う開発事業を資金的に支援し、事業完成後も長期にわたって返済を受けていく仕組みなので、事業を通してパートナーシップを構築しやすいといえます。**

**紺野**　援助の方法も、相手国の人々の考え方や価値観に応じて選んでいくことが大切なのでしょうね。いくつかの国を視察して、開発援助というのは地道な努力と忍耐力を必要とし、成果が見えるまでに時間がかかるけれど、とても大切な仕事だと実感しています。やや僭越ですが、育児に通じるものがあるように感じます。「あなたのためなんだから」と相手に感謝を押しつけても駄目だし、放任しすぎると援助国の支援や労力がフイにもなりかねません。相手をよく理解して根気よく支え、子供と親とが互いに良い影響を与えあい、成長していくような関係になれるといいですね。

**――お互いの国の理解を深めていくことは円借款事業の目的の一つでもあります。より良いパートナーシップの構築をめざしてこれからも努力していきたいと思います。本日は貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。**